

要求水準 1

施設及び設備の維持管理を適切に行い、安全かつ快適な利用環境を提供する

評価項目

- (1) 施設及び設備の保守点検等を適切に行うとともに、安全管理を適切に行い、故障や事故のない運営を行う。
 - ・点検、修繕の実績
 - ・業務委託の状況
- (2) 災害発生時における利用者の避難その他の応急対策、及び津波避難ビルとして一時的に避難者を受け入れることについてあらかじめ検討し、必要な対策を講じる。
 - ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策
 - ・マニュアルの作成
 - ・職員研修

状況説明

- ・施設および設備の保守点検等は、法定点検回数を遵守し、適切に行った。
- ・利用者の怪我や事故等が発生しないよう、適宜棟内の巡回やスタッフから施設の状態を聞き、管理した。
- ・多目的室のデスクのキャスター交換、和室の座卓脚の修繕等を実施した。
- ・新型コロナウイルスの感染防止策として、消毒作業を徹底。館としての対応と利用者への協力要請を検討し、チラシを作製して利用者に配布、ホームページやパネル掲示などで周知を図った。
- ・10月、3月に避難誘導訓練を実施した。12月にはAED講習を実施し、職員それぞれが処置を体験した。
- ・防災についての対応力向上のため、事業課職員2人が防災士の資格を取得した。
- ・須崎市との共催で同市総合保健センターにて防災イベントを実施し、啓蒙を図った。
- ・サービス改善事業予算で、避難経路表示パネルを作成した。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な施設及び設備の維持管理を行い、安全かつ快適な利用環境の提供に努めていることが認められる。

要求水準 2

利用者の満足度を高める運営により、施設利用の促進を図る

評価項目

- (1) 文化団体等が自ら行う音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の公演・発表や練習の場として、またその他の文化活動の日常の活動拠点として利用しやすい運営を行い、県民の芸術文化活動の拠点施設としての利用を促進する。
- (2) 民間興行による公演、各種団体の会議その他の催し物の用に供する施設として、主催者が希望する施設の利用形態に応じて、利用しやすい環境とサービスを提供することにより、施設利用率の向上に努める。
- (3) 利用者のニーズや評価等に関する調査・分析を行い、その結果を生かして、施設の機能強化やサービス改善に努める。

状況説明

- ・ホール及び多目的室のご利用案内や利用許可申請書、優先予約事前協議書などの内容を精査し、より分かりやすくなるよう修正した。
- ・ホームページは写真の入れ替えやレイアウトの変更も行い、“より見てもらえる”コンテンツになるよう工夫した。
- ・ホール休館中、技術課は、自主的に県内外に出向き最新技術の習得に取り組んだ。
- ・多目的室のカギのタグを部屋番号のみの表示から階数表示も加えたものに変更し、一目で部屋の位置が分かるようにした。
- ・サービス改善事業予算で、館内のサインをより分かりやすいものに変更。モール、駐車場、事務棟の各階にピクトグラム、英語表記も加えたサインを設置。避難経路も分かりやすい表示のものに変更した。
- ・来場者に対しアンケート調査を行い、公演情報収集先、来場手段、料金設定、来場動機、スタッフの態度、公演希望ジャンルなどを調査分析した。
- ・QRコードを利用したwebでの利用者アンケートは手軽に利用できるシステムであり、有効なツールと思われるので、これからも続けていく。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の文化芸術の拠点施設として、利用者の立場に立ち、快適な環境とサービスを努めるとともに、利用促進のための情報発信等を行うなど利用向上に努めていることが認められる。 ・来場者、来館者に分けてアンケートを行い、結果を更なるサービス改善などに生かすことに努めていることが認められる。

要求水準 3

質の高い芸術文化公演の企画・実施により、県民に優れた芸術鑑賞の機会を提供する

評価項目

- (1) 地域の芸術文化の広域拠点施設として、大ホール及び小ホールそれぞれの規模にふさわしい音楽や舞台芸術などの公演を自主的に企画し、実施する。
- (2) 県民の多種多様な鑑賞ニーズに応えるため、幅広いジャンルから上質な作品をバランスよく上演する。

状況説明

ホール休館のため他館との共催や連携事業としての実施となったが、県内各地の幅広い年代の方に質の高い芸術鑑賞の機会を提供した。

自主事業の本数は、事業計画書より2本増の11本(うち1本はコロナ禍で中止)。入場者数は11本合計で4,657人と事業計画書の目標人数3,800人に対し122.6%となり、前年比25,275人減となった。

<自主事業>

- ・映画:「県文シネマ日和 vol.10 ナショナル・シアターライブ ジュリアス・シーザー」
(高知市文化プラザ 大ホール:102人)
- 「県文シネマ日和 vol.11 初恋～お父さん チビがいなくなりました」
(自由民権記念館:329人※3回上映)
- 「第65回県民が選ぶ映画ベストテン」(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
- ・トークショー:「山里亮太の140」(須崎市立市民文化会館:964人)
- ・器楽:「The Rev Saxophone Quartet」(高知県立美術館ホール:317人)
- 「アンサンブル・ユーロアジア 高知公演」(高知県立美術館ホール:362人)
- ・歌謡ショー:「ぐっさんのハッピーオンステージツアー-presentnted by 東急リバブル in 高知」
(須崎市立市民文化会館:703人)
- 「JAPAHARINET×TANO 20th Anniversary Live(田野町ふれあいセンター:614人)
- 「鈴木翼ファミリーコンサート」(のいちふれあいセンター:294人)
- ・軽音楽:「くろしおビッグバンドフェス 2019」(高知市文化プラザ大ホール:515人)
- ・演劇:「ヨーロッパ企画第39回公演ギョエー!旧校舎の77不思議」
(高知市春野文化ホール:457人)

評価	理由
A	・吊り天井改修工事によりホールは休館していたため自主事業の本数は減少したものの、他館と共催、連携するなど工夫し、質の高い芸術文化公演を県内各地で企画・実施し、県民に優れた芸術の鑑賞機会を提供したと認められる。

要求水準 4

地域の創造力の向上に向けて、芸術文化を担う人材を育成する

評価項目

- (1) 自主企画により上演される作品等をテーマや素材にして、芸術文化への関心を高め、理解を深めていく事業を行い、芸術文化振興の担い手となる観客を育成するよう努める。
- (2) 学校その他の教育機関で、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の実演又は舞台設備、舞台音響、舞台照明等の効果的な運用操作などの舞台芸術に関する活動を行っている児童生徒を対象に、講習会の開催や発表機会の提供等を行い、次代の芸術文化を担う人材を育成するよう努める。
- (3) 指定管理者の自主事業として運営されているジュニアオーケストラの活動を継続し、芸術文化を通して青少年の健全育成を図るとともに、育成のための支援体制を充実させることにより、オーケストラとしてのレベルアップに努める。

状況説明

- ・自主企画入場者数は 4,657 人と事業計画書の目標人数 3,800 人に対し 122.6%となり、前年比 25,275 人減となった。
- ・「鈴木翼 ファミリーコンサート」の幼児向けコンサートでは、音楽を通じて祖父母と孫、親子で楽しめる内容で、子どもたちにリズムに合わせて体を動かす楽しさを伝えた。
- ・「珠玉の名曲コンサート～高知コンサートグループとともに～」として、三原村と室戸市で無料クラシック公演を開催した。
- ・「エチュード(即興劇)で学ぶ演劇ワークショップ」では、劇団・ヨーロッパ企画が実施するワークショップとして 10 代から 60 代まで幅広い年齢層の 25 人が参加。プロの導きで分かりやすく演劇を体験した。
- ・「能 meets 高知」のワークショップでは、世阿弥の「風姿花伝」をもとに能の成り立ちから演技まで、実演を交えて解説し、世界最古の演劇とされる能への関心を高めた。
- ・健康ゲームが高齢者の健康に有効とされていることに着目し、ゲーム指導士育成講座とゲーム体験会を実施した。新たな試みとして、芸術文化に加え社会的な問題にもアプローチした。
- ・ジュニアオーケストラ第 7 回定期演奏会を県立美術館ホールで実施。アンケートを見ても年々上達しているという高い評価をしてくださる方が多く、子どもたちの励みにもなっている。
- ・ジュニアオーケストラの施設外演奏として、窪川四万十会館で開かれた四万十弦楽フェスタでの演奏した。また、2020 こうち総文のプレ大会で土佐高校のオーケストラ部と合同で演奏し、審査員から高い評価を受けた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業企画において、ホール休館により来場者が昨年度 29,932 人から 4,657 人に減少したが、プロの演奏を聴く機会等を提供し、芸術文化振興の担い手となる観客の育成に努めたと認められる。 ・伝統芸能に関するワークショップを開催し、伝統芸能への関心を深め、芸術文化振興の担い手を育成したと認められる。 ・ジュニアオーケストラの体制強化に努めるとともに、外部での演奏機会を図る等、青少年の健全育成とレベルアップに努めたことが認められる。

要求水準 5

関係機関等との連携・協力により、芸術文化の振興を図る

評価項目

- (1) 芸術文化団体が企画する県民参加型の事業や、鑑賞団体が企画する一般の観客を対象とした公演を共催で実施するなど、県民の自主的な芸術文化の振興活動と連携・協力することにより、県民の芸術文化活動への参加の促進や、県民が優れた公演等を鑑賞する機会の拡大に努める。
- (2) 学校その他の教育機関及び芸術文化教育の推進を目的とする団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。
- (3) 県内の他のホール職員等を対象に、ホールの企画運営や舞台技術に関する実践的な知識及び技術を習得するための研修の機会や、共同開催の公演を実施することによる企画運営ノウハウの移転の機会を設けることによって、地域のホール運営の専門性向上に努める。

状況説明

- ・各団体と連携して芸術文化の振興活動支援、鑑賞機会の拡大につながる動きを行った。ホール休館のためイベント等との共催事業はなし。
- ・くろしおビッグバンドフェス 2019 では県内のアマチュアビッグバンドの公演機会を提供した。
- ・アンサンブル・ユーロアジア高知公演はアンサンブル・ユーロアジアコンサート高知公演実行委員会と共催で実施。
- ・高知をもっと好きになろう！プロジェクト「未来へ超えろ！ぼくらの歌」では、高校生実行員会が作りあげた歌詞にプロが作曲してオリジナル曲を制作するという高知青年会議所の企画を支援した。
- ・高知国際中学高等学校から協力依頼があった奥田弦の学校コンサートの企画・運営をバックアップした。
- ・ピアノ、パーカッション、バイオリン、歌の4人編成のユニットで県内の幼稚園・保育園を巡回する事業「こうちこども音楽プロジェクト(KCMP)」をサポートし、8園を訪ねた。園児達には音楽鑑賞だけでなく、1/8、1/4 バイオリンなどの楽器に触れ体験してもらった。
- ・元年度は他館で主催事業を行った。開催館職員との交流もでき、舞台技術についても当館から技術課職員が帯同する機会が多く、他館で実践を通じて技術研修もできた。
- ・「劇団ヨーロッパ企画」公演ではバックステージツアーを実施し、開演前の仕込みから終演後のバラシまで、窪川四万十会館の職員・同館を支えるボランティアが研修した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体と協力し、県民が質の高い公演等を鑑賞する機会を提供し、県民の文化活動への参加を促進したことが認められる。 ・県内の若手音楽家たちによるKCMPの活動を支援し、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供し、また、芸術文化活動への参加を促進したことが認められる。 ・他館からの要望に応え、バックステージツアー等の研修を開催し、また、事業を連携して実施することで、地域のホール運営の専門性向上に努めたことが認められる。

その他

評価項目

(1) 社会的責任

- ・法令等の遵守
- ・個人情報
- ・情報公開の状況

状況説明

- ・条令や内規等に基づいて管理運営業務を行い、「公平・公正」な対応を行った。
- ・内規は一部に曖昧で受け取り方が分かれるものがあり、明確化した。また、現状にそぐわなくなっていた部分もあり、修正を加えた。
- ・利用者の個人情報を扱う受付管理システムはインターネット環境から遮断しているほか、来館される利用者の事務室への立ち入りは受付カウンターまでとし、事務室開室中は必ずスタッフが在室し、情報流出を防いでいる。
- ・事業課のPCはネット環境にはあるが、各PCは本社管理のUSBメモリしか接続できないようにしてウイルス感染防止対策を行っている。
- ・情報開示はホームページをメインツールにしている。元年度はホール休館のお知らせと主催事業の告知が中心となった。3月から現在も主催事業の延期・中止が相次いでいて払い戻し方法などを詳しく記載して周知を図っている。

評価	理由
B	適切な管理運営がされたと認められる。

評価項目

(2) 利用実績

利用実績の状況:利用状況の分析

状況説明

区分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	前年度比
オレンジホール (大ホール)	開館日数	314日	340日	339日	341日		令和元年度は吊り天井改修工事のため休館。 H27は吊物更新工事に伴う閉館があった。
	利用日数	225日	246日	228日	239日		
	利用率	71.7%	72.4%	67.3%	70.1%		
	利用件数	165件	193件	174件	186件		
	入場者数	182,090人	206,250人	189,217人	189,545人		
グリーンホール (小ホール)	開館日数	325日	334日	342日	341日		令和元年度は吊り天井改修工事のため休館。 H27は吊物更新工事に伴う閉館があった。
	利用日数	235日	245日	248日	254日		
	利用率	72.3%	73.4%	72.5%	74.5%		
	利用件数	208件	203件	215件	218件		
	入場者数	48,440人	54,740人	54,505人	52,665人		
多目的室	延べ開館日数	3,960日	3,949日	3,949日	3,949日	3,960日	11
	延べ利用日数	2,278日	2,443日	2,502日	2,636日	2,379日	△257
	延べ利用率	57.5%	61.9%	63.4%	66.8%	60.1%	△3.3
	利用人数	81,778人	85,162人	95,952人	95,138人	77,036人	△18,102

評価	理由
B	ホール休館の影響などにより多目的室の利用も減少しているが、適正な管理運営がされたと認められる。

評価項目

(3) 収支の状況

経営努力:収入増加の取り組み・経費削減の取り組み

状況説明

・ホール利用料収入がない元年度は、雇用を確保したうえで芸術文化振興に注力することとしたため、収入増、経費削減に努めたが2,849万円の赤字となった。

(収入増)

・主催事業を3本増やし11本にしたこと、また入場者数増に努めた結果、入場料・参加料が1,113万となり予算を251万円上回った。

・多目的室利用料は2,160万円で予算を142万上回った。

(経費削減)

・他業務での労働機会の確保に努め、人件費を1,272万円削減した。

・主催事業を計画書段階の8本から3本増やしたうえで、事業費を1,548万円に抑え197万円縮減した。

評価	理由
B	決算は赤字となったが、収入増や経費削減に努め、適正な管理運営がされたと認められる。

評価	理由
A	<p>・吊り天井改修工事のためホールが休館していたため自主事業の本数や多目的室の利用は減少したものの、他館と連携し幅広いジャンルの自主事業を行い、県内各地で芸術文化に触れる機会や地域のホール運営の専門性を向上させる機会を創出した。</p> <p>・申請書類や運営マニュアル、内規の見直しや防災士の資格取得など、ホール休館中にできることに取り組み、再開に向けて利用者へのサービス向上に取り組んだことが認められる。</p> <p>・児童生徒に対してワークショップや活動支援を行い、質の高い芸術文化に触れる機会を提供した。</p> <p>上記により、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。